



ご利用製品 → [点呼+（ロボット版Kebbi）](#)

株式会社産業ガステクノサービス

代表取締役 篠崎 勝洋 様

茨城県ひたちなか市市毛1052番の2

液体窒素・液体酸素の配達

1拠点 16名

13台

課長 大塚 新 様 主任 堀江 慧 様

活用している点呼制度

活用方法



業務後に自動点呼を採用することで、帰庫が遅れる場合でも管理者の負担を軽減しながら確実な点呼を実施。

導入ステップ°



導入背景

- × 紙ベースの点呼記録で管理が煩雑だった
- × 早朝・深夜の点呼執行で管理者の負担が大きい
- × 朝の時間帯に点呼が集中し、点呼待ちが発生することがあった

導入したきっかけ

- ✓ トラック協会の「DX推進セミナー」で点呼+を知る
- ✓ 点呼業務に悩みを抱えていたタイミングでロボット点呼の案内チラシを目にした
- ✓ 茨城県の補助金制度も後押しになった



21時待機からの解放。ロボット点呼が変えた管理者の働き方

運用上の工夫

✓ 操作方法を丁寧にレクチャー！現場の不安を解消

- 高齢ドライバーからの操作不安の声に対応するため、事務員が一緒に立ち合い、操作方法を丁寧にレクチャー ◎ 対面でのサポートで不安を解消

✓ 運行管理システムとの連携で管理者負担を軽減

- ITP-WebService V3で位置情報を確認
メッセージ送信機能を活用しドライバーに伝言
ドライバーの帰庫を待たずに退勤が可能になった

✓ 点呼場の環境整備

- 点呼場の明るさが足りず、顔認証エラーが頻発していたが、リングライトを設置し改善につなげた ◎



導入効果

✓ 点呼記録簿の自動作成で煩雑な記録業務から解放

✓ 業務後の自動点呼により管理者の残業を削減

管理者が帰れる選択肢ができた

- 従来：帰庫待ちで18時定時→21時まで待機 (▲3時間/日)
- 導入後：ITPとの連携で位置確認→メッセージ送信で退勤可能

✓ システムを活用した対面点呼で、点呼の効率化と確実性を両立できるようになった

取材班コメント



ロボット点呼で捻出した余力を次の一手へ。
産業ガステクノサービス様は点呼+を起点に
デジタコ、乗務員時計と段階的に連携を拡大し、
管理者の21時待機を解消。業務効率化と働き方
改革を両立する、まさにDXの好例と言えるでしょう。